

2026 年 3 月 31 日
株式会社シーエス・ワンテン
株式会社日本ケーブルテレビジョン

2025 年度 CNNj 番組審議会議事録

1. 開催年月日：2026 年 3 月 31 日
2. 開催場所：株式会社日本ケーブルテレビジョン第 2 会議室
3. 委員出席：委員総数 8 名 出席 6 名 欠席 2 名

出席委員の氏名

委員長	小西 克哉	(国際教養大学大学院客員教授)
委員	大宅 映子	(評論家)
委員	石川 次郎	(編集者 (株)ジェイアイ社長)
委員	吉永 みち子	(ノンフィクション作家)
委員	音 好宏	(上智大学文学部新聞学科教授・メディア研究者)
委員	廣津留すみれ	(バイオリニスト)

<欠席>

委員	パトリック・ハーラン (パッケン)	(タレント)
委員	菊間 千乃	(弁護士)

(衛星基幹放送事業者：(株)シーエス・ワンテン)

代表取締役社長	福田 泉
業務推進本部長	船越 昇
編成局長	川北 桃子

(番組供給事業者：(株)日本ケーブルテレビジョン)

代表取締役社長	川島 保男
常務取締役 (メディアビジネス局担当)	山本 陽一
メディアビジネス局長	野並 宏康
メディアビジネス局メディアビジネス戦略部長	黒川 正明
総務局長	鈴木 正市
総務局人事・総務部長	城戸崎 ゆり

4. 報告事項

事務局より前委員1名が退任し、それに伴い、新たに1名の委員が就任した旨の報告があった。

5. 審議番組

(1) ザ・ホール・ストーリー「スポーツ オンライン賭博」

日本語字幕版 (45分)

The Whole Story with Anderson Cooper: Sports Betting: America's Big Gamble

放送日時 : 2026年2月14日(土) 14時00分～

スマホひとつで、いつでもどこでも賭けられる時代。2018年の米最高裁判決をきっかけに、スポーツ賭博は全米で巨大産業へと拡大している。

CNNのニック・ワット記者が、プロ賭博師や賭博依存で人生を狂わせた当事者、業界関係者、規制当局までを徹底取材。VIPプログラムなど巧妙に仕組まれたアプリ設計や、賭博がもたらす社会的影響を浮き彫りにする。

娯楽と依存の境界線はどこにあるのか。スポーツの熱狂の裏で進む“もうひとつのゲーム”を問う。

<委員意見>

*ギャンブルと言えばラスベガスかアトランティックシティだと思っていたのが、今やアメリカでスポーツ賭博は39州で合法であることに驚いた。しかし、DodgersやAngelsの球団があるカリフォルニア州では違法である。CNN特派員Nick Wattが米国ゲーミング協会会長Bill Miller氏から「スポーツ賭博やギャンブル依存症はごく少数の人々の問題で、携帯電話依存症の人数の方が多く、博打依存症は大した事では無い」という言葉をよくぞ引き出した。一方、スポーツ賭博が依然として違法な10州では、何故合法化が進まないのかを知りたいと思った。

*CNNでは、この番組を取り上げて視聴者に何を投げかけたいのか？博打を止められない、やってはいけないことをやってしまう人たちの事が理解できないので、見た後も虚しさが残る。「博打は身を滅ぼす」と聞いて育ったので、賭博やギャンブルの欲求が押さえられない人の気持ちが分からず、解決策も見いだせないし、答えも無いだろう。周りの人が賭博のことで大騒ぎしなければ、依存症の人も減少するのではないだろうか。

*依存症を発症する人は元々人間のDNAに組み込まれているという説がある。賭博の形態が変容し、今やオンライン賭博で瞬時に世界中と繋がるのが可能だ。プロのギャンブラーが、自分は依存症ではなく、儲けたら止めると語っていた。今や日本政府も老後資金のための投資を推奨しているが、これも一種の賭けではないだろうか。オリンピック競技もアジア小国の卓球も「賭け」の対象として同等に扱われ、スポーツ自体の在り方すら問われている。スポーツ選手が八百長に係わったり、負債を負ったり、或いは試合中の野次も過激にな

らないことを願う。番組では色々な業界の人物が登場していて、字幕を追うのも大変で、誰がどの発言をしているかが分かりにくかった。

* オンライン賭博の合法と違法の州が混在しているアメリカ合衆国の現状を目の当たりにした。オンライン賭博が急速に浸透し、賭博の巨大産業化が進み、依存症を合法的に作るうとしているのではないかと踏み込んだ取材をしている。昨年 NHK でも国内外のオンライン賭博依存症のドキュメンタリーを放送していたが、賭博は良くない、問題である、ということを中心に打ち出した内容だった。この CNN のレポートはファクト主義に基づいた、極めて CNN 的な調査報道だと感じた。今後、パラマウント・スカイダンスの買収によって報道姿勢に影響がでないか心配だ。

* とても面白い番組だった。様々な人をセクション分けして立場の違う人の意見や反対目線で視聴できた。異業種同士が組めば本業として稼げるなど、興味深い内容もあったが、社会に役立っているわけではなく、想像していたものとは違った。また、業界トップの人物が依存症防止に努めていると語っても、賭博ビジネスの企業側が依存症を増やすことによって利益を得るという恐ろしいループの仕組みがある。税金を依存症市民の賭博の損失から徴収するというシステムも疑問に思うし、人間の脳の働きを使って大金を動かすことを一度合法化したら後には戻れないという深い闇が見えた。合法化に向けては細かいリサーチが必要だと感じた。大変勉強になる番組だった。

* 大変面白い内容だ。テンポが速く、登場者の肩書きが長く、字幕を見ながら誰が話しているのかを追って視聴するのは大変だった。オンライン賭博の「賛成派」「反対派」の表示でもあれば良かったと思った。「ザ・ホール・ストーリー」の典型的な展開パターンで、米国ゲーミング協会会長の Bill Miller 氏のように依存症を作り出そうとしている側と、過去にアルコール依存症だった Nick Watt 氏をレポーターとして対立させるという、良いジャーナリズムの手法を用いている。米国最高裁では各州で合法化できるという判決が出ており、違法・合法が混在している様子は、トランプ社会の矛盾やアメリカのシステムの虚しさも現われている内容だった。

* なぜスポーツ賭博が近年合法化されたのかという前提がなく、単なる事象を追っているドキュメンタリーに見えた。合法化が正しかったのか、望ましい運用方法は、ということを見聞者に考えさせるのであれば、禁止から合法化までの変遷の議論を入れたほうが良い。また、プロギャンブラーの定義がなく、プロは掛け金のアッパーをどうやって決めるのかがわからなかった。スポーツも確率論の世界で、AI に可能性を分析させれば、大金を得る確率は上がるのだろうか。プロの定義を知りたいと思った。日本でカジノが合法化されれば、同様の問題が起こることは想像されるので、放送には意義があったと思う。

(2) ザ・ホール・ストーリー「イラン攻撃」日本語同時通訳版 (44分)

The Whole Story with Anderson Cooper: War with Iran: The Attack and Fallout
放送日時 : 2026年3月9日(月)11時00分～

アメリカ・イスラエルによるイラン攻撃から1週間。番組では、イラン国内の動きや開戦に至った経緯を振り返り、中東やアメリカへの影響を探る。なぜアメリカがこのタイミングで攻撃を決断したのか、イランやその同盟国の反応、そして拡大する紛争が今後どのような影響をもたらすのかを、専門家や元政府高官、外交官、軍関係者へのインタビューを交えて多角的に掘り下げる。

<委員意見>

*大変面白かった。複数の登壇者を1人が終始同時通訳していたため、字幕番組と異なり、分かりづらい。CNNjはCNNを日本人に日本語で身近に視聴してもらうという番組コンセプトだと理解しているが、番組によっては同時通訳だと逆に伝わりにくい。また、前の画面に登場する人物のコメントが、次の画面に切り替わった後に聞こえたりするという編集の問題もある。NHK BSの朝のワールドニュースは丁寧な作りで、セリフとスーパーがピタリと合っている。この「イラン攻撃」はとても良いテーマなので、視聴者に伝わりにくいことはもったいないが、同時通訳の限界を感じた。編集をしっかりともらいたいと思う。

*番組を見て、同時通訳は「同時」でなくて良いのでは、と思った。誰が言っている内容を一旦見失ってしまうと、その後の同時通訳が誰の発言なのかを追っていけなくなってしまう。番組後で良いので、解説をつけると分かりやすいと思った。視聴者に如何に理解してもらえるか、分かりやすく見てもらうかの工夫が必要だと感じた。

*同時通訳を頼りに視聴した。今までの審議対象番組よりも同時通訳が分かりやすかったが、複雑な戦争の話は同時通訳だと伝わりにくい。番組前半は、イラン政権側の視点で、行き場のない民衆の思いなどを、後半は戦争の背景を伝えていたが、このアメリカ・イラン戦争の起点はどこなのか、イラン政権下の経済制裁や民衆のデモなどについて中途半端な分析だったと感じた。アメリカがトランプ大統領体制をどのように見ているのかが垣間見えた番組だった。

*始まったばかりのイラン攻撃をコンパクトに報じていた。CNNとBBCは国際世論を先導する重要なチャンネルであり、戦争と言うナショナリズムが出やすい中、ジャーナリズムとして禁欲的に放送していた印象をもった。国内でも2000年代にNHKワールドが24時間英語放送化する一方で、制度的には2006～2007年に「命令放送」から「要請放送」への検討が進んだが、参考にしたのはCNNとBBCだった。CNNが持っているエネミー(敵意)は戦争下でも禁欲的だが、レポーターの内なるナショナリズムや西側主義も表れていた。パラマウント・スカイダンスの買収によって報道姿勢に影響がでないかが心配だ。

*英語、同時通訳ともに視聴した。原語だと声色で誰が話しているのかが分かるが、同時通訳では、通訳の女性が一人で話していたので、誰の言葉か分からない。開戦10日時点での、この情報量の多さはすごい。最高指導者ハメネイ氏の死がイラン国民にどう受け止められているか、日本ではつかみ切れていない中、CNNでは詳しく伝えられていた。また、今後のリーダーシップについても、国内と外交問題のそれぞれの歴史を踏まえてよく分析されていた。トランプ大統領とバンス副大統領が選挙時の公約「戦争を始めない、平和を追求する」を反故にしても、依然として7割の支持者がいるという事は驚きだ。そしてアメリカ国民がいかにトランプ大統領の思惑を分かっていないかも伝わってきた番組だった。

*とても良い番組だったが、イラン国民の生の声がなかった。開戦直後の正に進行中の戦争報道を伝えることは大変だが、全体の分析と歴史的視点をうまく配分していた。2000年代のアメリカとイラン関係に絞って放送していたことが良かった。また、Wendy Sherman氏（オバマ政権下のイラン核合意における米国首席交渉官）の「本当はイランを抑えることができた」という視点や、CNNキャスターChristiane Amanpourの「イラン人は中東でも教育レベルが高く、歴史があり、アメリカ人好きな国民」という発言も良かった。湾岸戦争時はCNNは正義の戦争を大興奮で報道したが、今回の戦争は誰も求めているという世論がありCNNの冷めた分析が生きている。とても質の高いドキュメンタリー番組だ。同時通訳の出来栄も初見放送にしては、とても良い。しかし、言葉の主が分かりにくいこと以外に、話の流れを見失ってしまうため、ドキュメンタリー番組は同時通訳の生放送である必要はなく、正確に編集した方が、視聴者には理解してもらえと思う。

*CNNが報道メディアのメジャープレーヤーとなったのが湾岸戦争の時、戦場に記者を派遣しては生々しい映像とともに生身の人間による実感と情報を届けてくれ、世界中の視聴者が釘付けになった。現場のリアル感が伝わりCNNの報道が最も高く評価され、今や戦争のたびに世界中の人が最初につけるチャンネルとなった。多種多様なチャンネルが増えた現在にCNNが目指すべきものは何か？「The Whole Story」は、高い品質の映像と信頼感溢れる報道陣による分析という、CNNの強みを存分にいかせた番組だ。タイトルの「The Whole Story（全ての物語）」を放送時間内で伝えられるのだろうかと思ったが、イラン攻撃の歴史的背景、開始までの流れや攻撃内容、この先の展開など、ほぼ「全て」に近いほど網羅されていた。欠けていたのは現場のイラン国民の声。CNNのお馴染みのキャスターがスタジオから分析や解説をしていたが、戦争の中を生き抜いている国民の声はほとんど登場しなかった。勉強になる番組だったが、身を張って直に現実を伝えるという、戦争報道スペシャリストCNNのルーツをもう少し思い出してほしかった。

*イラン国民の多様な視点が足りなかった。トランプ大統領が当初想定していた、イラン民衆は悪い指導者に苦しめられていて、アメリカの攻撃により歓喜し、アメリカに感謝するだろうという前提の作りが見えた。歓喜した国民もいるだろうが、自国が他国から攻撃、破壊され、民間人が犠牲になっているものを、トップが極悪だったとしても許容できるはずもなく、愛国心が勝るのではないかと思う。開戦直後の番組だったためかトランプ大統領の

攻撃自体の是非が問われていないので、物足りなさを感じた。現在進行形の内容は、時々刻々と状況が変化していくため、今時点から見ると、既に過去のものであり、情報が不正確であり、検証も甘いと見えるため、番組審議の対象としては、ふさわしくないのではないかと思った。アメリカとイランの歴史は知らなかったので、とても興味深かった。

6. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置その年月日

ローカライズの手法について、引き続き検討を重ねる

7. 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法、及び年月日

2026 年 4 月以降に、ホームページに審議会概要を掲載、公表する予定。

以上